

令和8年度

東祖谷中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①基礎的・基本的な知識・技能の定着と主体的に学習に取り組む生徒の育成
～目的意識をもち、生徒自らが「考える」授業の構成～
- ②学び合い活動を通して豊かな表現力を身に付けた生徒の育成

校長

藤原 隆司

学力向上推進員

庄野 薫

【各校の取組状況の把握について】

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

管理職による授業参観や教員からの報告、研究授業やアンケート等、様々な機会を設け、取組状況の把握を行う。

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○学習に対して意欲をもって、真面目に取り組むことができる。また、タブレット端末の活用能力が高い。 ●問題の意図を正しくつかんでいないため、誤答になることが多い。 ●読書量が不足しており、語彙力・読解力が乏しい。	・基礎的・基本的な知識・技能が確実に身に付いている。 ・問題の意図を正しく読み取ることによって、習得した知識や技能を発揮する。 ・読書習慣が身に付いている。	・タブレット端末の個別学習向けのドリル教材を活用して、既習内容の定着を図る。 ・ふりかえりシートを活用し、生徒自身が成長を実感できる手立てとする。 ・朝の活動において、読書に親しむ時間を確保する。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○授業中の話し合い活動に、積極的に参加することができる。また、タブレット端末を場面に応じてうまく活用できる。 ●自分の意見を整理したり、文章にまとめたりして発表することを苦手としている生徒が多い。	・意見の聞き方やまとめ方、発表の仕方などの基本的なスキルを習得している。 ・目的に応じて根拠や理由を明らかにしながら自分の考えをまとめ、言葉や文章で表現することができる。	・意見を交換し合う場면을授業に多く取り入れ、生徒の表現活動の活性化を図る。 ・タブレット端末の効果的な活用方法を教員間で共有し、授業で生かす。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○得意分野や興味・関心の高い課題については、試行錯誤をしながら最後まで粘り強く取り組める。 ●基礎基本の定着に個人差があり、既習の学習が発展的な学習へと十分に結び付いていないため、学習がとまってしまうときがある。	・さまざまな課題に対して諦めることなく、既習の内容と関連付けて解決しようとする。 ・いろいろな意見を出し合い、互いの考えを深めたり広げたりすることができる。 ・協働して課題解決に臨むことができる。	・教員が学習モデルを提示することで、課題に取り組みやすくする。 ・スモールステップで進めながら達成感をもたせ、学習意欲の向上を図る。 ・タブレット端末を効果的に活用し、課題解決の手立てとする。			